

インプラント周囲炎の予防～歯科衛生士にできること～ Prevention of Peri-implantitis~What Dental Hygienists Can Do~



Yuko Shimoda

下田 裕子

医療法人水上歯科クリニック

インプラントに対する認知度も高くなりインプラント治療を主訴に来院する方も年々増加傾向にあります。当院でもインプラント治療の恩恵を受けた多くの患者さんが、QOLの向上に繋がり、感謝されることを経験します。しかしながら、インプラント治療が身近な治療になる一方でトラブルが増えていることも事実です。なかでもインプラント周囲炎はインプラントを喪失する要因の一つになっています。そこで出来るだけ早期に発見し、適切に対応してインプラント周囲炎の進行を防ぎ、インプラントの保存延命を図る必要があります。

そもそもインプラント治療を受ける患者さんは何らかの原因で歯を喪失しています。喪失の原因を評価することはインプラントの長期生存を図るうえで重要です。特に歯周炎の既往がある場合はインプラント周囲炎の発症リスクが高まることからわかっているために残存天然歯の適切な歯周治療を行うことが重要です。

歯周病に罹患している患者さんに対してはインプラント治療に入る前に必ず歯周基本治療を行います。ここでは特にOHIによるプラークコントロールの徹底から始まり、SRPで根面の清掃による残存歯周ポケットの減少を行い、周囲炎の発症リスクを極力下げよう心がけます。

また一方で適切なメンテナンスがインプラント周囲疾患の発症予防につながることもわかっています。そこで私たち歯科衛生士はインプラント周囲炎に罹患させないよう口腔内の管理に努めなければなりません。今回の講演では日頃私が診療室で行なっている、インプラント周囲炎への予防について歯科衛生士の立場からお話をさせていただきたいと思います。

【略歴】

1996年 福岡医科歯科技術専門学校（現 博多メディカル専門学校）歯科衛生士科卒業
同年 医療法人水上歯科クリニック勤務
現在に至る

【所属学会】

特定非営利活動法人 日本歯周病学会認定歯科衛生士
特定非営利活動法人 日本臨床歯周病学会指導歯科衛生士